

産業建設常任委員会
所管事務調査資料
(令和6年5月13日)

(事務調査)

- ① スマート農業推進事業の進捗状況について

産業経済課農業グループ

① スマート農業推進事業の進捗状況について

1 厚真町の農業情勢

厚真町の農家戸数は、全国の例にもれず減少傾向にあり、平成23年度の農家戸数382戸に対し令和5年度の農家戸数255件と、1年で約10戸、10年間で約100戸減少しています。認定農業者（耕種）1戸あたりの平均経営面積は令和5年度で23haであり、20ha以上の農家が増加傾向にあります。しかし、農家1戸あたりの農業従事者数は1.8人と夫婦以下であるのが現状です。

少ない農業従事者数で大規模な農地を耕作していくためには、厚真町農業委員会が推進する地続きでの農地拡大に加えて、スマート農業技術の導入による作業の効率化・省力化を図ることが不可欠です。

2 厚真町のスマート農業技術導入の経緯

厚真町では平成28年度より RTK-GNSS 基地局を開設し、スマート技術の普及による農業労働時間の大幅な縮減や作業効率化による経費削減等を目的として、厚真町独自に「スマート農業導入支援事業」を創設し、自動操舵や農業用ドローン等の普及を推進してきました。

また、厚真町に新たに必要な農業技術について JA とまこまい広域とも協議の上、令和4年度はハウス内環境管理システム、令和5年度は水田の水管理システムと新技術の導入を推進しています。令和5年度末時点でスマート農業技術を導入した農業者（農業法人を含む）52戸です。

(1) 厚真町スマート農業導入支援事業の実績

年 度	自動操舵システム	ドローン	ハウス内環境制御技術	水管理システム	計	事業費実績（千円） （総務省デジタル田園都市交付金）
H28（基地局役場設置）	3	—	—	—	3	2,462
H29	3	—	—	—	3	1,857
H30	4	—	—	—	4	2,764
R1（R2.2 基地局 JA 移管）	5	1	—	—	6	4,103
R2	7	5	—	—	12	7,685
R3	8	1	—	—	9	4,623
R4	10	3	2（デジ田）	—	15	11,893 (1,372)
R5	15	2	2	6（デジ田）	25	9,094 (1,998)
計	55	12	4	6	77	44,481 (3,370)

(2) 産地生産基盤パワーアップ事業の活用

水田・畑作・野菜等の産地の創意工夫による地域の強みを活かしたイノベーションの取組やスマート農業の活用により生産基盤の強化を支援する事業である農水省の「産地生産基盤パワーアップ事業」を活用し、本町においても、JA と協議の上、経営面積拡大等の収益力強化への計画的な取り組みに必要な大型スマート農業機械の導入を推進するために、本事業を積極的に活用しています。

また、農水省や北海道の事業において活用できる事業についての情報収集を行い、迅速に農業者に案内できるよう努めます。

対象作物	件数	台数	事業費(千円)	補助額(千円)
畑作	4	4	59,348	26,795
水稲	18	25	141,602	64,357
計	22	29	200,950	91,152

※令和4年度事業のうち、町内農業者のスマート農業機械導入実績

(3) スマート農業技術の普及率

厚真町におけるスマート農業技術の普及状況は、水稲・畑作については20ha以上かつ経営者が60歳以下の農業者の約8割を達成しており、平成28年度から開始したスマート技術の普及については、一定の成果をあげていると認識しています。

	全体数	スマート技術導入戸数	スマート技術導入割合
認定農業者数(耕種)	145戸 (4,358ha)	52戸 (3,331ha)	36% (76%)
20ha以上かつ経営者が60歳以下(水稲)	8戸	8戸	100%
20ha以上かつ経営者が60歳以下(水稲・畑作)	56戸	43戸	77%

3 今後の支援の方向性について

(1) 施設園芸分野のスマート農業技術の導入

一方、厚真町の施設園芸の分野におけるスマート農業技術の導入は始まったばかりです。施設園芸については、厚真町農業担い手育成センターにおいても、新規就農者が小規模な農地と設備投資で営農開始が可能な作物としてホウレンソウ・イチゴについては、重点的に栽培指導をしています。

令和4年度は総務省のデジタル田園都市交付金を活用し、厚真町のトマト・ミニトマトのハウス栽培において、施設園芸分野におけるスマート農業技術を初めて導入しました。これにより、作業時間を削減しつつ、一定品質・収量を収穫し、若い世代の農業後継者や新規就農者からも関心が高まっているところです。

この関心の高まりを受けて、令和5年度は、厚真町独自の「厚真町スマート農業導入支援事業」の支援メニューに新たにハウス内環境制御技術等導入事業を追加し、施設園芸分野におけるスマート農業技術の導入を推進しています。

今後は先駆的にスマート農業技術を導入した農業者から導入効果や活用方法のノウハウを発信し、関心を持つ他の農業後継者や新規就農者が効果を共有することにより、新たなスマート農業技術が更なる広がりを見せると思われます。このような場を農業者主体で作っていくことができるような働きかけを行っていきたいと考えております。

(2) 厚真町に適したスマート農業技術の選定・導入

JA とまこまい広域と連携し、厚真町に適したスマート農業技術を選定しています。厚真町の水稲栽培においては、田植え機、トラクターの自動操舵が普及し労働時間が削減される傾向にあるのに対して、水管理については機械化されておらず労働時間はほとんど削減されていません。水管理については、昼夜を問わず、人がわざわざ水田に出向き湛水状況を確認するという従来と変わらない「水回り」が行われています。先駆的に水管理システムを導入し、水稲栽培における労働時間の約3割を削減したという滝川市を令和4年度に視察しました。視察後、JA とまこまい広域と協議の上、厚真町の水口に適合する水管理システムの機種選定を行い、令和5年度に、総務省のデジタル田園都市交付金を活用し、6件118台の水管理システムを導入し、令和6年度より本格稼働する予定です。

(3) 他地域の事例

水稲・畑作分野では一定程度、スマート農業技術の普及が達成されましたが、厚真町の農業を持続的に発展させていくためには、スマート農業技術の情報収集・共有・意見交換をすることができる場が必要ではないかと考えています。

滝川市では、実際にスマート農業機器を導入している農業者及び今後、導入を検討している農業者が集い、これから導入を進めたいスマート機器のメーカー実演会等を開催し、有効性を互いに確認しあったり、既に導入したスマート農業技術の長所・短所を共有し短所を克服する活用方法についてお互いに共有する等の取組みを行っています。

厚真町においても、このような意見交換の場があることで、スマート農業技術の普及率の上昇にもつながり、厚真町のほ場に合った活用方法が共有され、作業効率・有効性の向上にもつながると考えますので、どのような場が適切か農業者の意見を聞きながら検討して参りたいと考えています。